

# TZ 〈ほんの窓〉


第 35 号 〈2015.4〉 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから始まる大学での学びは、高校までのそれとどのように違うのでしょうか。解くべき問題や課題が既に目の前にあって、解法を学びながら正解を導く。これが高校までの学びの中心だとすると、大学では解くべき問題そのものを自ら考えることが求められます。そしてその答えを求めて様々な文献や情報を検索・入手し、参照しながら自分の考えを整理した上で、他者に向けて発信する機会があります。またこうした作業は、一人だけでなく、グループで進めることもあるでしょう。

大学での学びに必要な一連の作業は、しばしば「アカデミック・スキルズ」と呼ばれています。このリーフレットでは、大学に入学された皆さんの自律的学修を支援するため、特に「調べる」、「読む」、「文章を書く・発表する」といったアカデミック・スキルズに関する本をご紹介します。この他にも附属図書館には関連した文献が多数ありますので、ご自身でも探して活用してみてください。

※【 】内は、図書館内の請求記号（本の住所）です。



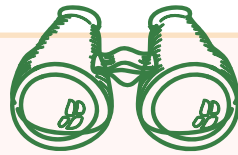
## アカデミック・ スキルズ 2015



### 1. 全般的な本（スタディ・ガイド）

大学生活に必要な「アカデミック・スキルズ」全般を 1 冊で網羅している本が見たい、そんな方にオススメの図書です。

- 佐藤望編著. 大学生のための知的技法入門. 第2版, 慶應義塾大学出版会, 2012【0020:181】  
ノートの取り方・情報の探し方・レポート・論文の書き方など、自分で問題を見つけ答えを導き出す「知的生産技法の基本」を解説したもの
- 橋本努著. 学問の技法. 筑摩書房, 2013【0020:183】  
筆者の実体験を踏まえた「いろいろな学びの技術」。「知的に生きるためのヒント」、「情報収集や読書や議論などの基本的なテクニック」、「文章作成の方法」がメイン
- 苅谷剛彦著. 知的複眼思考法. 講談社, 2002【1400:723】  
「常識や紋切り型の考え方にとらわれず、ものごとを考えていく方法」（複眼思考）を解説するテキスト。問いのたてかた・展開のしかた、複数の視点からものごとをとらえる方法などを解説している
- 増田四郎著. 大学でいかに学ぶか. 講談社, 1966【2000:5】  
一橋大学元学長（1964年 - 1969年）。西洋経済史が専門。筆者の半生を振り返りながら、大学で学ぶ心構えや研究課題への向き合い方を平易な文章で説明している



## 2. 対象を「調べる」際に参考になる本

何かについて知るためには先行研究を探したり、直接当事者にインタビューをしたりして、情報を入手する必要があります。どのように情報を入手するか、その技術を紹介してくれる図書です。

- 山田剛史, 林創著, 大学生のためのリサーチリテラシー入門, ミネルヴァ書房, 2011【3700:4019】  
学部2-3年生を主な読者としているが、「聞く力」、「課題発見力」、「情報収集力」、「情報整理力」、「読む力」、「書く力」、「データ分析力」、「プレゼンテーション力」を養うコツを紹介している
- 藤田節子著, 図書館活用術, 新訂第3版, 日外アソシエーツ, 2011【0100:630】  
欲しい情報を自分自身で、速く・的確に探せるようになるための「図書館活用術」を紹介している
- 佐藤郁哉著, フィールドワークの技法, 新曜社, 2002【3610:1931】  
筆者は一橋大学大学院商学研究科教授。フィールドワークをする際の対象の下調べ、ヒアリングの仕方、記録の取り方、情報整理の仕方などのポイントが、著者自身の体験と共に分かる



## 3. 文献を「読む」際に参考になる本

何かについて知るためには欠かせない読書という行為。どんな風に読むか、読み方の技術を紹介してくれる図書です。

- M.J. アドラー, C.V. ドーレン著, 本を読む本, 講談社, 1997【0800:34:1299】  
すぐれた書物を「知的かつ積極的に読むための規則」を「初級読書」、「点検読書」、「分析読書」、「シントピカル読書」の4つのレベルに分けて解説している
- 石黒圭著, 「読む」技術, 光文社, 2010【0100:602】  
筆者は一橋大学国際教育センター教授。本書は特に、「速く効率的に読む」、「文章世界に自然に入りこむ」、「深く多面的に読む」ための読解ストラテジーを、8種類に整理して解説している
- 福澤一吉著, 文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング, NHK出版, 2012【8100:1180】  
テキストを論理的に分析・吟味し、評価し、さらに、そこから新たな問いや疑問を発信するスキル、すなわち「批判的思考」を身につける方法を解説している

## 4. 「文章を書く・発表する」際に参考になる本

レポート・論文を書かなければいけない、口頭発表をしなければならない、でも何から始めればいいのかわからない、そんな方にオススメの図書です。

- 石黒圭著, 論文・レポートの基本, 日本実業出版社, 2013【8100:1100】  
論文・レポートの書き方がわからない新入生に、論文・レポートが採るべき構成とその理由、一つ一つの文章を「ウソの少ない表現」にするための文章術に焦点を当てて説明している
- 藤田節子著, レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方, 日外アソシエーツ, 2009【8100:958】  
レポートや論文で他人の文章を引用したり参照したりした場合は、出典を明記することが必要となる。本書は本や雑誌論文からwebサイトに至るまで、豊富な事例を挙げながら出典の書き方を解説している
- 塚本真也, 高橋志織著, 学生のためのプレゼン上達の方法, 朝倉書店, 2012【3364:429】  
伝えたい内容をプレゼンテーションを通して的確に伝える技術を、文章と実際の訓練によって習得することを目指している。写真が豊富に使われているのも本書の特徴である
- 宮野公樹著, 研究発表のためのスライドデザイン, 講談社, 2013【0070:2184】  
研究成果を「わかりやすい」スライドを使って説明するための、情報量、デザイン、配色など、実際に役立つルールが簡潔にまとめられている

